

令和 7 年度 第 6 回
裾野市上下水道事業審議会
会議録

とき：令和 8 年 1 月 28 日（水）

ところ：裾野市役所地下会議室 A

出席者	<p>審議会委員：齋藤委員(学識)会長、中川委員(商工会)副会長、汐見委員(東)、白城委員(西)、田中委員(深良)、臼井委員(富岡)、杉山委員(須山)、大竹委員(公募)</p> <p>事務局：鈴木部長、山田上下水道工務課長、松村上下水道経営課長、芹澤主幹、眞田係長、佐々木主査、勝亦</p>
内 容	
R7 年度第 6 回審議会の開催をしたもの。	
司会進行：齋藤会長	
次第参照	
13:30～ 開会	
会長：あいさつ	
審議会条例に基づき開会時に委員過半数の出席（9/9）が認められるため会議は成立。	
1. 議事録署名人の指名	
会長：議事録署名人は、白城委員・臼井委員を指名いたします。	
両委員：了	
2. 議事 1 審議会の公開、非公開について	
会長：原則公開、理由あらば非公開。事務局案はいかがですか。	
事務局：今回審議会内容の議事(2)はすでに審議を終えている答申案の立案になりますので、公開でよろしいかと考えます。	
会長：事務局より議事(2)は公開でよろしいかと案ありました。委員皆さまの判断はいかがでしょう。	
委員各位：異議なし。	
会長：それでは、議事(2)は公開とします。	
3. 議事 2 令和 7 年度水道・下水道事業の審議会答申案について(市長諮問)について	
会長：年明け前の前回までで、市長諮問に対する答申案の大枠までは審議が終わりました。本日配布資料は事務局と私とで修正してきたものです。事務局にはいろいろご苦労をされたかと思います。皆さんからのご意見等をいただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。	
事務局：それでは説明します～	
会長：忌憚のないご意見をいただきたいと思います。	
～質疑～	
13:40～	
委員：前回審議会の終わりの方で、簡易水道の意見が提出されたと記憶しますが、大変に厳しい状況なので、抜本的な改正が必要と載せたらどうでしょうか。	
委員：来年漏水調査を行うと聞いた。おそらく前半に行うのではないと思う。当面の調査として漏水調査を行うのでしょうか、根本的解決はコレだというもう少し明るい見通しを載せられたら、。	
会長：答申案は少しオブラートに包んでいるような。過去からの流れを踏襲していく形。こういうことをやれたら明るくなるかも、ということでしょうか。	
委員：すごく明るいものは、予算が伴わないので中々書けないのかもしれない。	
委員：前回の話では、人口も少ない中で、高額なお金をかけて補修が必要と聞きました。別な視点で、市	

として別荘地として積極的に活用していけると良いのかもしれません。須山の活用。別荘地改革と共にどうでしょうか。

会長：なるほど。市として手は何か打っているのでしょうか？

事務局：裾野市観光戦略の中に十里木周辺の戦略を盛り込んでいます。非常にありがたいご意見なのですが、おっしゃられた人口を増やしていく施策は、付帯意見の中で述べたられたいのかと思います。

委員：管理会社が管理しているので、市が直接管理は難しいのでは。別荘地は、そもそも騒がしいことを望まない人も多い。なかなか難しい面がありますね。

事務局：実際に行われているのは、スポーツツーリズムとして実業団チームを誘致し別荘地のペンションを活用しているところです。別荘地内には有名なサウナもある様です。ハイキング・登山との連携はこれからというところです。いずれはこれらを総合し検討していく必要があると思っています。

委員：愛鷹山登山、富士登山はありますが、宝永火口までの間に結構見どころもある。そういったのは市でやるのですか？

事務局：協議会がごさいます。市・県・事業者でPRをしています。例えば愛鷹山の越前岳は日本200名山に入りますが、今ひとつ知られていません。

委員：もし市がやっているものがあれば、十里木別荘地を知ってもらおうとか、そういったところも連携してやっていけたら良いですね。人を集める施策があつたら良いと思う。

事務局：給水を減らさない様に、関係人口を増やしたり維持することは大切ですね。

会長：水道パイプを使わないと言ったアイデアも聞きました。人を増やす努力。市民としては、こういった意見もある。

委員：先ほどの管路の中に管を実際にできる方法があるのでしょうか？

事務局：ごさいます。実際に下水道の方で、そういった工法を使う工事を発注しています。工法はありますが、あまり細い口径の管では難しいと思います。

委員：予算を使えるようにできたらいいんですね。ずっと有収率は低く、ポンプアップの電気代予算もかかっていて、大変と聞いている。お金を掛けても仕方ないのかなと感じてしまう。お金を掛けても良いような何かないのでしょうか。

委員：ポンプアップの電気料はあるでしょうけれど、それよりも別荘地の場合、道路下の本管だけ直しても道路からの個人敷地が広大なので、家までの間でそこから漏れている可能性もあるのではないかな。いっぺんにできる投資は難しい。バイパスをつくることも大切だし、更なる検討をして欲しい。ただ、もう検討はしている訳でもあるけれど。

委員：やはり管理会社に出資のお願いに行くのは必要なのではないかな。

委員：付帯意見の(1)に官民連携と書かれている。前提は、使用料収入・料金収入。でもそれだけではやっていけないので、税の投入を市長に訴えろとか。

委員：方策として、水道の配管修理とかで今の水道管の中に新しい管を入れることはできないのでしょうか？それと、別荘地の送水ポンプをインバータにすれば。無駄な電気代を減らせるかもしれない。職員配置も問題と思っている。

会長：職員さんは、どこかで見切らなければならない可能性もあると思います。コンセッションしかないのかなと。私は付帯意見(4)は迷いました。毎回訴えても、職員全体のパイが減っているのが判っている中で、問題があるのは間違いないので入れている。まさに先ほどと同じ簡易水道のところと同じようにオブラートに包んだ書き方。

委員：ここは継続して言い続けるしかない。

会長：そこから先は、外注しかないのかなと。それがあある意味官民連携。ちょっと明るい意見では無いのですが。

委員：水って生命線にかかわる部分。富士宮などはバナジウム水、特徴のあるのを売りにしている。裾野の水で特徴的なものは無いのでしょうか？

事務局：裾野市の水の分析をしたことがあります。裾野はバナジウムが少ないです。作ることで市の水としての PR 効果はあったと思いますが売りにするには難しい。

委員：水でお金を稼ぐ。地下水に賦課したらどうか。ほかには昔は水道部独自の採用があったようにも聞きます。

委員：2年くらい前に、市長にアウトソーシングの話をしたことがあります。この部分はよその会社へ。

委員：足りない部分のみ職員がやる。設計・監理・施工・精算まで専門業者に任せてしまったらどうか？正直なところ、職員よりも管路のことを知っている業者は多いです。もっと頼っても良いのではないかな。

委員：水道部の中にアウトソーシングの会社をつくらないと。いろんな形で色んな方法が。

委員：それで軽減できますかね？

委員：できると思います。

委員：水の販売で、A 事業者が裾野の水で水の販売をしていくらしいと聞きました。

事務局：現工場の敷地の中に井戸を掘って、水の販売も始めるらしいですね。

委員：B 事業者もありますね。

事務局：A 事業者は 2025.12～生産開始とのことです

会長：答申案にどう組み込んでいくか。他部署との連携や既成の水道の概念は捨てよ、というものもある。もう少し厳しめの事を書くかどうか。

事務局：事務局としては、経営戦略の中でもまず有収率を上げないといけない事は必須かと思っています。これまでと同じ投資計画では無く更に投資するための財源確保のために財政当局と協議を実は R7 の夏ごろからしているところです。

委員・会長：

付帯意見（2）簡易水道事業の財源確保を強く述べたい。前後を入れ替えるか、官民連携も入れられるか。

付帯意見（4）職員配置 どうするか。

事務局：下水道事業に関しては、国も補助する条件として官民連携を含めてくるような流れもあり、現在流域下水道事業の中で県主導で W-PPP という官民連携の話が始まっています。

会長：かつて水道事業からお金を廻すことはできないか、というような話もあったような？

事務局：可能になるよう、貸付要綱をつくっているところです。

会長：了。簡易水道事業は、予算が少ない中で有収率が下がっていったと理解しています。

みなさんの意見を伺い、修正をして具体の文言は事務局と会長で詰める、ということでお願いできますか。

委員各位：異議なし

会長：議事については終了します。

～15:10 休憩

15:10～

5. その他

事務局より、

次回第7回審議会（答申）のお知らせ

R7.12.23 開催の任意参加施設見学会の様子 説明

6. 閉会

会長より次回に向けての説明とあいさつあり。